

第5回アジア神経精神薬理学会(AsCNP)

会期：2017年4月27～29日 会場：Bali International Convention Centre(Bali, Indonesia)

笠井 慎也

公益財団法人東京都医学総合研究所精神行動医学研究分野依存性薬物プロジェクト

池田 和隆

公益財団法人東京都医学総合研究所精神行動医学研究分野依存性薬物プロジェクト

AsCNP について

アジア神経精神薬理学会(Asian College of Neuropsychopharmacology: AsCNP)は、アジア各国の神経精神薬理学分野における基礎・臨床研究の推進と、高度教育の普及を目的に2009年に創設されました。現在、日本神経精神薬理学会(JSNP)、日本臨床神経精神薬理学会(JSCNP)、Korean College of Neuropsychopharmacology(KCNP)、Taiwanese Society of Biological Psychiatry and Neuropsychopharmacology(TSBPN)、Neuroscience Society of Taiwan(NST)、Chinese Society of Psychiatry(CSP)、Philippine College of Psychopharmacology(PCPsych)の7学会がAsCNP会員学会に名を連ね、インドネシア、インド、タイ、シンガポール、オーストラリアの個人会員などと共に本学会を構成しています。AsCNP主催大会は2年に1度開催され、第1回は2009年に山脇成人 前CINP理事長の大会長のもと、京都で行われました。今回が5回目の開催で、インドネシアHasanuddin大学精神科のAndi J. Tanra教授が大会長となり、インドネシア・バリにあるBali International Convention Centreにおいて2017年4月27～29日に開催されました。

今大会では19ヵ国、約600名の参加者があり、開催国インドネシアに次いで日本からの参加者が多く、アジアに

おける神経精神薬理分野での日本の貢献度の高さを示していると考えられます。また、John H. Krystal Yale大学精神科教授によるKeynote Lectureや中込和幸 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所所長によるPlenary Lectureなど特別講演が11セッション、CINPなど関係学会とのjoint meetingが4セッション、シンポジウムやワークショップが30セッション、教育講演やビジネスミーティング9セッションの計54セッションが行われました。参加者は、基礎研究者から臨床のみに従事する医師などさまざままで、若手研究者や臨床家のための教育訓練といったアジア各国のそれぞれの事情に対応した幅広い内容の発表や教育、議論が行われました。ポスター発表では、神経精神薬理学や神経化学の発表が主で、疾患別では統合失調



写真1. 左から順に、Pierre Blier CINP副理事長、Anthony Graceピッツバーグ大学教授、John H. Krystal CINP理事長、Andi J. Tanra AsCNP理事長/AsCNP2017大会長、池田和隆 次期AsCNP理事長/AsCNP2019大会長(Keynote Lectureにおいて)